

3. ライトトロリングに使用できる曳具 (ティザー)

ライトトロリングに使用するタックル(ロッド・リール)にはドラグの強度(耐久性)と使用範囲があるため抵抗の大きな曳釣り用曳具(ティザー)は使うことができません。まして中層曳具などは、

適切なものを選ばないとタックルを破損させてしまいます。以下にライトトロリングに使用できる曳具を紹介します。



●C&Hバード
200 ¥2,400 (税抜)
サイズ：20cm
カラー：レッド、ブルー、グリーン



●トロリングラビット
70 ¥1,800 (税抜)
90 ¥1,900 (税抜)
110 ¥2,000 (税抜)
130 ¥2,650 (税抜)



●バード
125 ¥2,000 (税抜)
サイズ：12.5cm
カラー：イエロー・ピンク・ホワイト・レッド



●フィンフライヤーライン付
12.7cm ¥3,700 (税抜)
17.8cm ¥4,000 (税抜)



●潮切りヒコーキ (左右セット)
サイズ／24cm ¥4,400 (税抜)
左・右と外側に向かって泳ぎます。



●アウトローバー (左右セット)
サイズ／30cm ¥10,800 (税抜)
左・右と外側に向かって泳ぎます。



①トロールシンカー
170g ¥900 (税抜)
225g ¥1,100 (税抜)
②トロールリード
225g ¥1,000 (税抜)
450g ¥1,200 (税抜)
③潜行オモリセット
200・400・600g入 ¥7,000 (税抜)

4. 曳具 (ティザー) とルアーの組み合わせ例

●青物系 (イナダ・ハマチ・ワラサ) に適した組み合わせ例

基本的にルアーのサイズに合わせて曳具 (ティザー) の大きさも大きくしていきます。このタイプのティザーは連結して使用することができます。



①イナダ 1~3kg ¥1,900 (税抜)
②ヒラマサ・シイラ 3~8kg ¥4,000 (税抜)
③釣元セット 1号 ¥3,800 (税抜)
④釣元セット 2号 ¥4,800 (税抜)

●カツオ・メジマグロなどに適した組み合わせ例

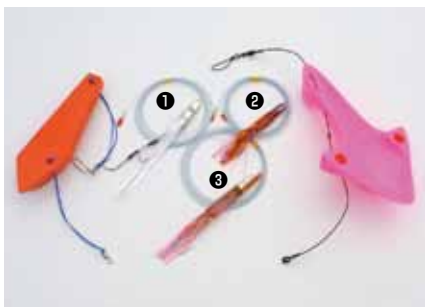
荒い海や潮目の中で使用しても安定したバランスを保ちます。



①カツオ 1~3kg ¥2,000 (税抜)
②大カツオ・メジマグロ 2~5kg ¥2,400 (税抜)
③シルバールアー 125mm ¥2,000 (税抜)
④沖サワラ・大シイラ 5~20kg ¥4,500 (税抜)
⑤釣元セット 4号 ¥4,800 (税抜)

●右・左と外側に向かって泳ぐティザーの組み合わせ例

基本的に上記青物系、カツオ・メジマグロなど全てのルアーに対応することができます。さらにこれらのティザーは、浮力があるため中大型魚用ルアー等とも組み合わせることができます。



①シルバールアー 125mm ¥2,200 (税抜)
②マグロ 5~20kg ¥6,500 (税抜)
③マカジキ 20~50kg ¥9,000 (税抜)

●中層曳具に適した組み合わせ例

基本的に全てのルアーに対応することができますが、ルアーの浮力が小さく重いタイプがよいとされています。また弓角やラバラといったアイテムも有効です。



①メタルタイプルアー
(左から) ¥2,800 (税抜)
¥2,600 (税抜)
¥3,000 (税抜)
¥3,300 (税抜)
②プラスチック弓角
8cm ¥1,700 (税抜)
9cm ¥1,900 (税抜)
③牛弓角
8cm ¥3,600 (税抜)
9.5cm ¥4,400 (税抜)
④ラバラ
9cm ¥2,000 (税抜)
11cm ¥2,200 (税抜)

5. ライトトロリングの方法

トロリングでのルアーの流し方は、アウトリガーの有無によって流すラインの数を増やすことができ、ヒットの確率を上げることができましたが、右、左と外側に向かって泳ぐティザー（潮切りヒコーキやアウ

トロバー）の登場で、アウトリガーがない船の場合でも、表面（表層）を流すトロリングに限り4本のラインを流すことができるようになりました。また、ロッド、リールを使用するトロリングでは、ルアーを

遠くに流したり近くに流したりすることは、リールの調整により簡単にでき、魚の食い付きが悪ければ曳具（ティザー）やルアーを取り換えたりと色々と工夫することも、トロリングの楽しさとして味わうことができます。

●アウトリガーが無い船のトロリング例

図1では両舷に装備したロッドホルダーよりトロリングラビットを付けたラインを流し、表面（表層）を狙うトロリングを行なっています。右舷側に流すトロリングラビットの位置は一波後方に位置させていますが、その理由は船が旋回したり魚がヒットしたりした場合でもラインを絡めないためです。また中央より流した3本目のラインには潜行オモリを付け、中層を狙っています。この場合、表面（表層）を流している両舷のルアーと中層を流している中央のルアーとは棚が異なるため、ラインが絡み合う心配はないのですが、同じく表面（表層）を流そうとした場合、小型で幅の狭いフィッシングボートではラインが重なり合ってしまう。

図1

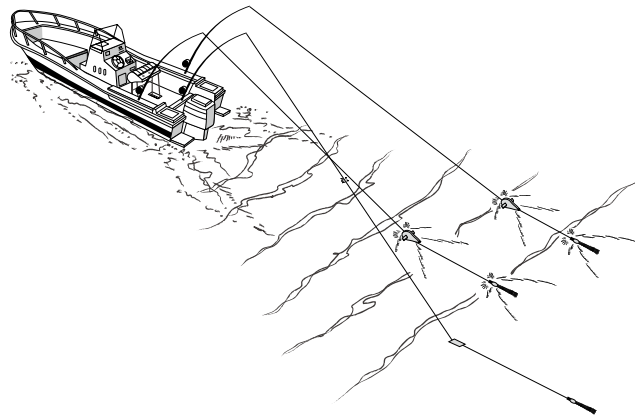


図2

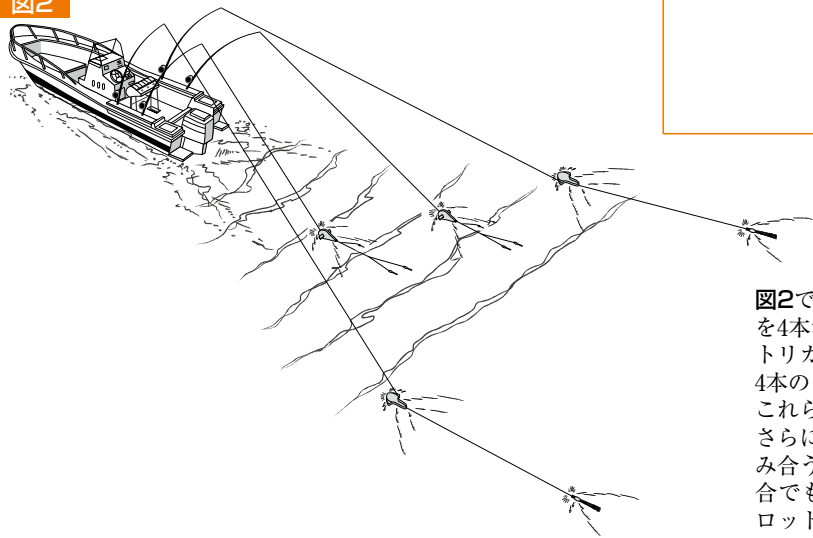
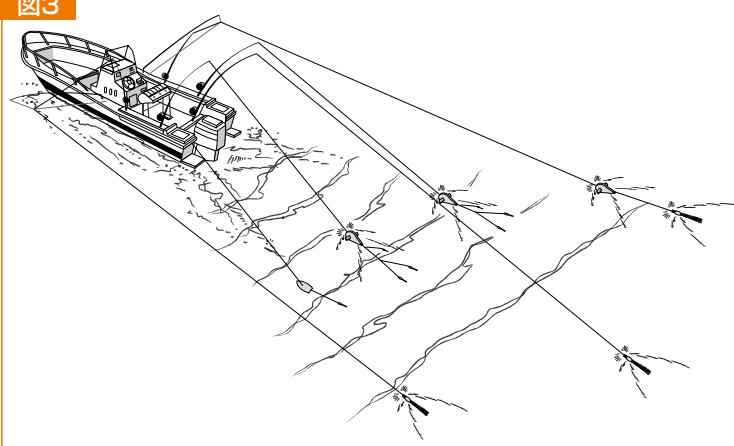


図2ではアウトローバー、潮切りヒコーキを利用してラインを4本流しています。右・左と外側に向かって泳ぐためアウトリガーが無くても表面（表層）を曳くトロリングに限り4本のラインを流すことができます。これらのティザーを使用するとアウトリガーを利用するよりさらに大きく左右に広がるので、急旋回をしてもラインは絡み合うことはありません。また、アウトリガーが無い船の場合でも片舷に2本のロッドホルダーを装備し、両舷で4本のロッドホルダーが必要になってきたようです。

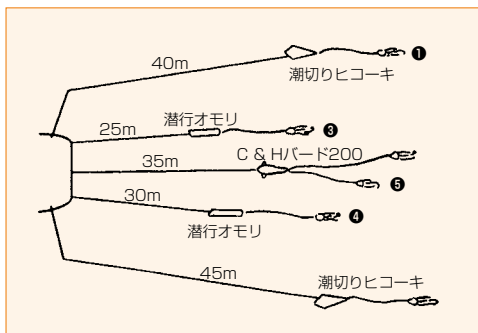
●アウトリガーがある船のトロリング例

図3では、アウトリガーを装備して小型フィッシングボートでのライトトロリングです。トロリングで5本のラインを流し、番外編ではありますが曳釣りでの潜水板を入れています。この潜水板の適正なスピードは最大5～6ノット、したがってそれ以上のスピードでのトロリングは出来ないこととなりますが、カツオやメジマグロがいる時にはどうしても投入したくなるアイテムの一つでもあります。左舷アウトリガーで流しているのがティザーを付けない素引きでのルアー。FRPの弾力によりルアーにシャビク動作を加えることができ効果があります。また、このアウトリガーを利用して中層を曳くティザーを流すこともできます。センターより流す素引きのルアー。おもいきりロングで流すことによってラインが重なり合うことを防いでいます。小型フィッシングボートでアウトリガーを利用するのライトトロリング。表面（表層）でルアーを流すためには、一波ごとずらしてルアーを位置させることでラインが重なり合うことを防いでいます。（それでも急旋回は禁止です。）

図3

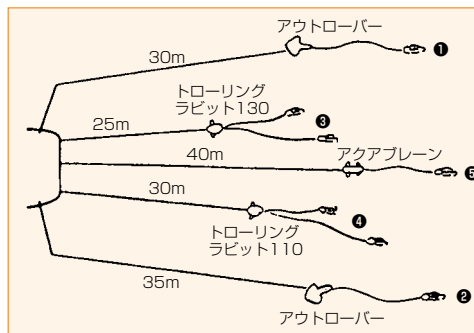


●対象魚体10kg未満（イナダ、ハマチ、ワラサ等）



- 使用ルアー
①② ヒラマサ、シイラ 3～8kg
③④ イナダ1～3kg
⑤ 釣元セット水面2号

●対象魚体10kg未満（カツオ、メジマグロ、キハダ等）



- 使用ルアー
①大カツオ・メジマグロ 2～5kg
②シルバールアー 125mm
③④ 釣元セット水面 4号
⑤ マグロ 5～20kg